**平成２９年度第１回佐賀市環境審議会議事概要**

日時　平成29年7月31日（月）

14：00～15：48

場所　佐賀市清掃工場２階会議室

**出席者　（敬称略）**

■環境審議会委員14人

　　市場正良（会長）、兒玉宏樹、林信行、山西博幸、飯盛啓生、小城原直、副島恵美子、島ノ江修治、橋本辰夫、桑原博美、中原正登、菊池典男、柏木洋一、池上敏昭

（欠席：髙島千鶴、坂田艶子、宮﨑順子、秀島しのぶ）

　■事務局

環境政策課（百崎課長、副島副課長、山田副課長、中野係長、満武主査、内田主事）

　　循環型社会推進課（渡島参事、渕上副課長、羽立係長、馬場係長、田中主査）

　　バイオマス産業都市推進課（本山課長、西副課長、成住主事）

環境保全課（和田課長、中村副課長、太田主任）、衛生センター（原口副所長）

**傍聴者**

０人

**議事内容**

**（１）佐賀市環境マネジメントシステムの運用状況について**

　　事務局からの説明の後、質疑応答を行った。

**【質疑】**佐賀はたいへん多くの淡水魚が生息している。一方、トンボや生き物に触れたりする機会は昔より減ってきており、学校周辺でも必ずしも生き物に触れ合える場があるとは言えない。そのような状況において、街なかにある神野公園は、多布施川から水を引いた小川、トンボ池、大池など、貴重な自然があるが、トンボ池には草が繁茂し、水生生物の生息には不適切な環境となっている。多くの在来魚、トンボが生息し、身近に自然体験できる場として神野公園は大変適していると思われ、適切に管理し活用していただきたい。

**【回答】**トンボ池は、公園管理とあわせて除草や花の管理などを行っている。どういう取り組みを行うことで適切な管理が行えるか、中原環境審議会委員等にもアドバイスをいただきながら関係課とともに考えていきたい。

**【質疑】**事前質問に対する回答について、

1. 「B-DASHプロジェクト」について、温室効果ガス排出削減量の算出は困難ということだが、すばらしい取り組みであり、数値で成果を示せないか。

　　　　②難古紙は、分別の手間や要するエネルギーを考えると、分別するか、分別せずに燃えるごみとして処理するか、どちらが有効か。

　　　　　また、難古紙の分類、分別の仕方はどうなっているか。

1. 食品リサイクルの状況を数値データで示せないか。

**【回答】**①検証結果として、以下を確認できた。◆ＣＯ2分離・回収技術については、安定的にメタン（濃度90％以上）及びＣＯ2（濃度99％以上）を良質な製品ガスとして回収できること。◆微細藻類培養技術については、最適運転条件によって藻類生産量は年間を通じて研究目標値を満足し、脱水分離液中の窒素、リンを削減できること（水質負荷における培養槽（1,000㍑）あたり削減率は、全窒素21.2％、全リン95.9％）。◆汚泥可溶化技術については、30％可溶化処理時で過去５ｹ年の平均値と比較して5～15％の消化ガス発生量の増量効果があること。（メタンＣＯ2の回収量も増加。）

（※以上については、後日回答。）

②難古紙のみに対する費用対効果等の数値データ等を示すことは困難。しかし、以前リサイクルできなかった感熱紙や小さな紙なども現在はリサイクルできる。家庭における燃えるごみでは約３割が紙ごみであり、３Ｒ推進のためにも難古紙についてもリサイクルに取り組むなど、意識することが大切。

　　　　　分別方法は、家庭系ごみについては「ごみカレンダー」に掲載している。事業系ごみについては、収集業者に確認されたい。

　　　　③生ごみ、紙ごみなどは燃えるごみとして混入されているため困難。ただ、平成26年に行ったサンプル調査では、燃えるごみにおける生ごみの割合は、家庭系ごみで４割程度、事業系ごみで６割超となっており、これらを参考にスーパーなどの事業所からの生ごみの堆肥化など、食品リサイクルの実証実験を行っている。

**【質疑】**九州電力以外の電力会社から電力を購入している市施設もある。電力会社によって、二酸化炭素排出係数が異なり温室効果ガス排出量にも影響があるが、小売電力会社を決める基準は設けているか。

**【回答】**市有施設の電力の調達契約に係る競争入札を実施する際には、環境配慮契約法に基づき規定した「佐賀市電力の調達に係る環境配慮方針」に基づき、二酸化炭素排出係数や未利用エネルギーの活用状況等を評価して、評価点が一定基準以上の事業者に対して入札参加を認めている。

**【質疑】**佐賀市環境マネジメントシステムにおいて、全庁で取り組んでいる５つの共通目標については、全庁での達成目標も設定すべきではないか。

**【回答】**事務事業の増減や、課かいの機構等の増減などを鑑み、部局単位で数値目標を設定しており、全庁での達成目標は設定していない。必要性なども含め検討したい。

**【質疑】**ＰＤＣＡサイクルの運用において、環境審議会には、内部環境監査の結果報告だけでなく、管理委員会で示された改善等の報告が必要ではないか。

**【回答】**環境審議会での意見等を環境管理委員会に報告して、その後の運用を図るという体制で行っている。

**（２）騒音規制法、振動規制法及び悪臭防止法に係る規制地域の見直しについて**

　　事務局からの説明の後、質疑応答を行った。

**【質疑】**パブリックコメントでは、悪臭についての意見はなかったか。

**【回答】**なかった。

**◎その他（事務局からの連絡）**

7月21日から9月3日まで開催の「エコプラザdeサマーＤｏ」、11月7日から11月11日開催の「アジア湿地シンポジウム」の周知、東京オリンピック・パラリンピックのメダル原料として不要となった小型家電に含まれるリサイクル材を活用する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の協力依頼を行った。

**閉会**　15：48終了